

かお・人・interview

2023年12月27日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
菊池川河川事務所 所長

原田 隆二氏

HARADA Ryuji

菊池川河川事務所が所管する菊池川はその流域に自然と豊かな観光資源、人の暮らしが共存する。かつての河川氾濫は落ち着いているものの、気候変動による水災害の深刻化は懸念されている。この課題に対処するためには、行政と地域住民の連携が不可欠だ。過去の経験を踏まえ、幅広い意見を聞きながら新しい治水計画の方針を策定し、現代のニーズに対応したいと原田所長は語る。今後の具体的な取り組みについて話を伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

菊池川流域は、菊池渓谷など美しい自然に恵まれ、沿川には、菊池・山鹿・玉名といった温泉街が点在しています。その中でも山鹿市は流域の要であり、豊前街道の下町総門地区は、昔ながらの街並みが残り、菊池川沿いには移設した番所「惣門」、周辺には八千代座などの文化施設があり魅力ある観光名所になっています。

流域の観光資源を守り歴史的財産、そして何よりも皆さまの安心安全の確保のため「流域治水の推進」に努めて参りたいと考えております。



▲山鹿特殊堤・パラペット天端まで約15cmとせまった（平成2年7月出水）

近年は世界的な気候変動の影響として、大規模な水害・土砂災害の激甚化、形態の変化が懸念されています。これらは想定外の事象ではなく、全国どこでも起きうることを考えなければいけないでしょう。国・県・市町村の行政関係者はもとより、地域住民の皆さまにいろいろな形で耳を傾けていきたいと考えます。今後の治水計画の在り方などについて、幅広いご意見をいただき、多様化する現在のニーズに対応すべく、まずは新しい治水計画の方針について作成していきたいと思っております。

Q熊本県や記憶に残る仕事

平成28年4月の熊本地震では、被害が大きかった南阿蘇村に



▲合志川山城堰

「土砂災害のTEC - FORCE」として、九州地整から現地に派遣されました。被災直後から現地に入り、頻繁に発生する強い余震や警察・消防・自衛隊による行方不明者の捜索活動など、現場はとても高い緊張感が漂っていたのを、今でも思い出します。そこでは、地震による土砂崩壊により、保全対象エリア付近に不安定土砂が迫っていないか、当該土砂が降雨などによって土石流となって流出する可能性があるかどうかなど2次災害の防止に向けた調査を行いました。

また、平成29年7月には九州北部豪雨災害で、福岡県朝倉市で甚大な被害が発生した赤谷川において、被災した河川の応急工事対応として現場で復旧工事などの陣頭指揮に当たりました。その際、地域に精通した建設業者の方々、そして住民の皆さまの協力を得ながら、緊張感をもって応急対策工事にあたったことも忘れられない出来事です。

Q 当事務所の紹介

当事務所では、菊池川における築堤や河道掘削による流下能力の向上や適切な川幅の確保に向けた橋梁や堰など河川横断工作物の改築を行っています。また、上流域の迫間川（菊池市）において、かわまちづくりとして河川環境整備事業を進め、下流域では河川防災ステーション（玉名市）などの防災拠点の整備も進めているところです。また、気候変動の影響や社会状

況の変化などを踏まえ、流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で取り組む治水対策、いわゆる「流域治水」の推進に努めています。

事務所は6課3出張所等の約50名の組織です。多様化する地域のニーズに応えるため、河川行政にあたる職員一人一人が元気・やる気・勇気を持って業務にあたる組織を目指しています。うれしいことに、入省1～5年目の若手職員が数多く在籍しており、彼らは将来の職場において重要な存在です。適切な育成に努めることで、柔軟で骨太な組織を目指していきます。

Q 今年度の事業概要（簡略）について

【河川事業】

菊池川の治水対策において根幹となる河川改修事業の実施。菊池川水系河川整備計画に基づき、洪水、高潮等による被害から地域を守るために堤防整備、護岸整備、河道掘削、樋管等の改築、河川横断工作物（堰、橋梁）の改築など行っています。

【ダム管理】

菊池川の支川迫間川の upstream に位置する洪水調節、流水の正常な機能の維持、利水補給（かんがい用水、工業用水、水道用水）を目的とした多目的ダムとして、平成14年度より運用しています。

近年頻発する異常気象による洪水被害の防止・軽減するとともに、安定的に



▲菊池川下流部堤防強化事業



▲河川防災ステーション（イメージ）



▲竜門ダム



▲竜門ダムとドラゴンキャンプ場

水を供給する等、地域の発展や活性化に貢献すべく管理運用を行っています。

Q地域との連携・協働について

菊池川には、「菊池川流域連携会議」という住民団体があります。我々は国の行政機関として、菊池川の管理や整備を進める立場にあります。一方、本流域連携会議は、菊池川周辺の様々な団体や個人が協力し、連携を図ることで、地域の発展と安定に貢献している重要なパートナーです。行政だけでは流域に点在するさまざまな課題を解決するには限界があり、そのような中、



▲菊池川おおかわの会清掃

菊池川流域連携会議の力は大きく、当事務所にとって非常に頼もしい存在です。

立場は違っていても、菊池川を想う気持ちは同じです。共通の目標を掲げる仲間として、これまで緩やかに継続的に仲良く歩んできた菊池川流域連携会議のみなさんと、これからも引き続き強力な連携のもと、お付き合いさせていただきたいと思っています。

Q地域建設業への要望・メッセージ

地域のインフラ整備事業を支えていただけるのは、地元建設業者の皆さまです。工事を進める際には、地域住民との連絡調整が不可欠であり、地域事情に詳しい皆さまのご協力が極めて大切であると感じています。また、工事開始までの段取りが非常に重要であり、地元建設業者の地域精通力と幅広い経験がとても大切であると認識しています。我々行政と協力し、地域の安心と安全を実現するために、引き続きよろしくお願ひします。

Q趣味や健康法について

特別な運動はしていませんが、健康には注意を払っていますので、手軽にできるウォーキングは意識しています。週末には自宅周辺の緑が多い場所を散策。新鮮な空気とのびのびとした環境は、心身ともにリフレッシュできる最高の方法です。

ほかに行っている気分転換は、スポーツ観戦です。特にプロ野球のジャイアンツファンです。試合を見るときは熱が入ります。私の影響があったかどうかわかりませんが、息子が野球部に入っています。彼がプレーする姿を見ていると、日々の努力がいかに大事か試合を見るたびに学ばせてもらっています。また、親子で共通の話題があると、会話も弾み絆が深まると感じています。家族と過ごす時間とスポーツの魅力が、日常を豊かにしてくれ、明日へのモチベーションになっています。

プロフィール



出身地：大分県大分市出身
生年月日：昭和44年3月18日(54才)
H30年4月 河川部 建設専門官(砂防担当)
R元年4月 筑後川河川事務所九州北部豪雨復興出張所 事業対策官
R3年4月 国土交通省水管理・国土保全局 防災課 災害査定官

R 5年4月 現職